

戦後初めての火力発電用タービン

登録番号	第00013号		
登録年月日	平成20年10月9日	登録区分	第二種
名称 (型式等)	タービン発電機 (旧千葉火力発電所1号機)		
所在地	神奈川県横浜市 東京電力ホールディングス株式会社 電気の史料館		
所有者 (管理者)	東京電力ホールディングス株式会社 電気の史料館		
製作者(社)	ジェネラル・エレクトリック社		
製作年	1956年		
選定理由	戦後、設置された初めての大型火力発電用タービンである。アメリカのジェネラル・エレクトリック社製であり、容量が従来の約2倍と増大し、わが国で初めて100MVAを超えた大容量新鋭火力の1号機である。この装置以降、日本の火力発電に高効率化、自動化などの新技術が採用された。戦後の日本の発電技術の原点ともなる装置である。		
登録基準	ーホ (試行錯誤、失敗の事例など科学技術の継承を図る上で重要な教育的価値を有すもの)		

公開・非公開	非公開
写真	 <p>The photograph shows a massive industrial turbine generator, likely the No. 1 unit from the former Chiba Thermal Power Station, displayed in a museum. The machine is a complex assembly of metal parts, including a large circular rotor and a stator, mounted on a heavy metal frame. It is surrounded by railings and informational panels. The setting is a well-lit museum gallery with other exhibits visible in the background.</p>
その他参考となるべき事項	